

～はじめてレポートを書く方へ～
レポートって 何ですか？



八洲学園大学

レポートって 何ですか？

<やしま先生>



と<麻奈美さん



> の面談（レポート編）

麻奈美さんは大学に入学したのですが、レポートのことが不安で、やしま先生に話を聞きに行きました。



先生、大学になると、テストがどうしてレポートになるのですか？ 高校のときのテストは、○×問題、()の穴埋め問題、三択問題などで、教科書を勉強しておけば何とか答えることができたのに。レポートでは、教科書を勉強しても、どう書いていいかわかりません。教科書の通りを書き写すと丸写しになって、なんだか無味乾燥のようで、書いても意味がないような気になります。いったい、レポートって何ですか？



いいことです。レポートって何？ このように思えることは素晴らしい問題意識をもったということですよ。そういう問いをもつことから学びが始まります。レポートとは、そのような学びの過程を文章で書き表して、わたしはこのような学びをしましたという報告をする報告書のことです。もうすでにレポートモードに入っていますよ。



いいえ、わたしは、レポートの書き方がわからなくて困っているんです。それをレポートモードに入っているだなんて。レポートを書く気になんかなっていません。レポートは、めんどろで、わたしを苦しめるものだと思っています。



いやいや、その困り感こそが、学びにとっては宝なのです。どうしてそのような困っているか、それは…いいレポートを書きたいから、…でしょう？ …だと思えますよ。何とかして、いいレポートを書きたいと思っている。でも、その書き方がわからなくて困っている。それは、いわば、目の前に大きな壁を自分でつくっている状態です。そして、その壁をくぐり抜けたいと思っているのです。それが学びの問いをもつことで、問いをもつことは壁をくぐり抜ける「門」をも築いているのです。ほら、問と門、似ているでしょう？ 問という文字は、門の中に入口の口が付いています。壁は問いがあるからできるのです。そして、問いは壁への入口（門）をつくり、自分を前向きにします。



何のことですか？ わたしがいいレポートを書きたいという問題意識をもって
いることはわかりました。でも、それが前向きなことだとは、思えませんが…。わ
たしは、できなくて困っているのです。ん？ 困っているということが前向きだ
ということですか？ それは、じっくりこないです？ 困っているということは、停滞している
ということでしょうか？ 違うのですか？



う～ん、するどいですね。そうもとらえることができます。では、別の考え方
からいきましょうか。人は困っても前向きになります。「なぞかけ」に興味をも
ったことはありませんか。急なことです、落語家に紹介していただきましょう。



承知しました。エー、では、なぞかけ問答を始めます…「お菓子屋さんとか
けて、今日の天気と解きます。さて、そのココロは何でしょう」…

ココロとはお菓子屋さん今日の天気のふたつに共通することですよ。さあ
さあ、そんなむずかしい顔をしないで…。ヒントは、おいしいもの…。



えーと、何だろう？ お菓子屋さん今日の天気と関係のあるものですね。
ヒントは、おいしいもの？ はて、お菓子はおいしいけど、今日の天気はおいし
い？ なんだって？ …わからない。…何だろう？



そこです！ 今、なかなか答えを見つけることができなくて、困っています
ね。でも、投げださずに何とか見つけようとしています…困っても、そのこと
で、前向きになろうとしているのです。困ることで精神は活性化するのですね。
では、そのココロとやらを紹介してもらいましょう。



はい、がってん承知のすけ。エ…「お菓子屋さんとかけて、今日の天気
と解きました。そのココロは、どちらもあめがきになります」…。あめとは、
飴のあめで、雨のあめでもありますね。お菓子屋さんの前を通ると飴が気にな
りまして、今日の天気はってえと雨が気になります。チャンチャン、なぞときでした。



アハッ、そうか、そうですよね。これはいいことを勉強したわ。友達にも教え
てあげよう。おもしろがるわ、きっと。



それです。困ったことが解決して、うれしくなりました。そして、人に教えて
あげたくなりました。これが前向きになっていることの証拠ですね。もちろん、
困ることには、生活の中での深刻な悩みもあります。しかし、勉強に関すること
での悩みや困ったことは、前向きになるための第一段階なのです。それを自分でつくること

ができてから、レポートについて問題意識をもつことはいいことなのです。



そういう考え方があったのですね。それはわかります。いいレポートを書きたいという気持ちが、書けないという壁をつくる。それもわかります。でも、わたしは、壁はつくったけれども、そこにあるはずの壁への入口、「問い」をつかむことができません。本当に、わたしは、書きたいと思っているのでしょうか。



これもいい質問です。書きたいと思う「問い」をはっきりさせてみましょう。問いは、文書によって提示された各科目のレポート課題と、言葉の見えない課題とがコラボしてできます。コラボとは協力製作することです。



えっ、言葉の見えない課題って？ どこにあるんですか？ まさか、みかんの汁で書いたあぶり出しのようなものが付けられているとか？ そんなことはないでしょうけど、見えない課題というのが気になります。ああ、それが見えていないから、わたしは「問い」をつかむことができなかつたということになるのですか？



おっと、ストレートで、グイと来ました。そうそう、前向きになっています。いいことです。それでは、見えない課題をつかむために、レポート課題は何のためにできているか考えてみましょう。



何のために、って…それは、単位をもらうためだと思いますが、違うんですか？ だって、提出したレポートによって評価されて単位が出るんでしょう。だから、わたしは、必要な科目を履修して、そのレポートを書こうとしているんです。



その理解でもいいですが、…その背景が描けると、レポートへの理解がもっと進みます。それぞれの科目には、その科目を開設する目的があつて、科目が開設されています。シラバスには「科目の概要」として記述されています。そして、それらの科目の履修を積み重ねることで、修学（＝学問を修め習うこと）ができるようになっています。単位とは修学した積み重ね状況がわかるように数値化したものと考えればいいですね。で、レポート課題は、それぞれの科目の、開設の目的にそつて内容の理解ができているかどうかをみるために設定されているのです。



そうすると、科目開設の目的を知ることで、見えない課題が見えるようになるということでしょうか。確かに、レポート課題には、その科目開設の目的は書き添えられてはいません。シラバスの「科目の概要」を見ることで、それがわかりますね。



ところが、まだ、そのもとがあるのです。それは、大学教育の意味から来るものです。文部科学省が大学教育について、次のように規定しています。

- ・ 大学は、その教育上の目的を達成するために必要な授業科目を自ら開設し、体系的に教育課程を編成すること
- ・ 大学は、教育課程を編成するに当たっては、学部等の専攻について専門の学芸を教授するとともに、幅広く深い教養と総合的な判断力を培い、豊かな人間性を育成するよう適切な配慮をすること（＝大学設置基準（昭和 31 年文部省令第 28 号）（抜粋））



大学が存在している背景には、こういうことがあったのですね。大学にいろいろな科目のあるわけがわかりました。二番目にある決まりは、各科目では、先生方はこのように教えて下さいと、文部科学省が大学の先生方に言っているのですか？



いい解釈ですよ。先生方は、そのような方針で指導にあたっていると考えていいです。三つありますね。専門の学芸を教授する…、幅広く深い教養と総合的な判断力を培う…、豊かな人間性を育成する…。これが、先生方の教育方針となります。学生のみなさんは、その方針に応えることが、勉強することになります。



ん、学生からいうと、専門的なことを学んで、教養を豊かにして、判断力をそなえる。そして、豊かな人間性を育てることが、大学に入学した目的になる…ということですね。専門的なことだけを学ばばいいのではないのですね。



そうそう。それで、八洲学園大学では、さきほどの文部科学省の方針にそって、卒業にあたっての、学位授与の方針を決めています。それを、ディプロマポリシーといいます。次のようになっていますよ。

- ・ 生涯学習についての幅広い識見
- ・ 生涯学習社会の実現に貢献しうる課題発見・解決能力、実践力
- ・ これらの基盤となる豊かな人間性

これらの素養を身につけて、かつ正科生として所定の期間在学し、卒業に必要な単位を修得した者に、学士（学術）の学位を授与する、…となっているのです。



うわっ、何だか、急に頭が重くなってきたわ。そのような力のある人になれるらしいとは思いますが、大きな話ね。何だか無理そう。このようなことができるようにならないと、卒業できないということですか？ 単位とは別に、そのようなことができるかどうかを調べるのですか？



いえいえ、単位とは別に調べることはしません。それぞれの科目を履修する中に含まれているのですよ。単位が取得できるレポートを書くことで、そのような…幅広い識見、課題発見・解決能力、実践力、豊かな人間性…などが身につきます。ただ、本人の努力しだいですが…。



それは、どんな努力ですか？ レポート課題は、教科書を勉強して書くのでしょうか？教科書には、そのような、学位授与の方針にいられているようなことは書かれていなかったような気がします。どうやって勉強すればいいのですか？



それが見えない課題です。あえていうなら、卒業して、社会でひとり立ちしていけるための力を身につけるにはどうしたらよいか、という課題かな。それに向かう道をレポートの課題にそって書き表していくと、次第に、自分の人生を豊かに描くことができるようになるのではないのでしょうか。そして、卒業となるのです。



ああ、何となく分かってきた気がします。だから、レポートなんですね。三択問題や（ ）の穴埋め問題、○×問題だけでは、そのように、自分の人生を豊かに描けるようにはならない気がするわ。



いいことに気づきましたね。レポートを書くとき、レポート課題や科目の概要と合わせて、自分はこれからどのように生きていけばよいのかということも考える。そうすることで、その科目に関しての自分の問いが生まれます。そして、答えを見つけるのです。この科目を通してわたしはこのように伸びよう…と。それが自分の主張です。それができたら、そうなった一連のことを、人が読んでわかるように順序よくまとめる。これで、自分にしか書けないレポートができますね。



そうですか。何となくですが、レポートの意味がわかってきました。ただ、まだ、何となく、です。自信がもてません。何から始めて、どうすればいいですか。実際の書き方を教えていただけますか。



それには、『レポートの書き方ハンドブック』を参考にするといいですよ。レポートを書くにあたっては、いろいろな約束ごともあるから。始めは苦労するけど、それはだれでもが同じ。何度も書いているうちに、できるようになります。



わかりました。では、『レポートの書き方ハンドブック』を読みます。そして、試しに、レポートの書き方についてのレポートを書いてみます。出来上がったら先生にお届けしますので見て下さい。今日は、ありがとうございました。

～はじめてレポートを書く方へ～ レポートって 何ですか？

2019年9月1日発行

【発行】八洲学園大学

【編集】八洲学園大学 教務委員会（執筆：渡邊達生）

お問い合わせ先

八洲学園大学 学生支援センター

メール：u-info@yashima.ac.jp／電話：045-410-0515

（平日 9:00～21:30 土日祝 9:00～17:00）

※時期により受付時間が変更する場合があります。